

令和元年度第3回地域福祉計画推進協議会 議事要旨

<日 時>令和2年1月31日（金） 13時30分～15時30分

<場 所>和歌山市あいあいセンター福祉交流館3階会議室第3・4

1 開会

・福祉局長挨拶

前回のこの会議は11月に開催させていただき、素案を審議いただいた。その後、12月20日から1月18日までパブリックコメントを行った。

本日は、第4次計画策定のための最終の協議会となっている。パブリックコメントでの意見を参考にした案となっているので、ご審議のほどよろしくお願ひしたい。

・会長（議長）挨拶

前回、第4次の地域福祉計画について確認いただき、素案に修正点等たくさんいただいたところ。

本日は、この修正意見を踏まえ、最終案を確定していきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。それとともに、前回確認いただいた計画の概要版と、次の5年間の計画をどのように進めていくのか、事務局から説明がある。PDCAサイクル(plan do check action)ということで、計画の推進も重要な要素となっているので、是非そのあたりも確認いただければ幸い。

2 議事

(1) 協議会の副会長の選出について

(2) 第4次和歌山市地域福祉計画（案）について

<事務局>

・次の資料について事務局から説明

【資料1】 第4次和歌山市地域福祉計画（案）

【資料1-1】 前回協議会でのご意見と素案の修正等について

【資料1-2】 事務局側からの素案修正

【資料1-3】 市民意見募集（パブリックコメント）結果について

(3) 第4次和歌山市地域福祉計画の概要版(案)について

<事務局>

- ・次の資料について事務局から説明

【資料2】 第4次地域福祉計画概要版(案)

<議長>

パブリックコメントの方は、この3名の方、丁寧に見て下さったんだという印象を持っている。結果としては、パブリックコメントの文言等を(計画本文に)反映することはないが、本当に和歌山市民にとって深刻な問題。交通問題が全面的に出ている。そういうのは非常に大きいし、市民ニーズやアウトリーチの話など、この協議会でも議論になった話を市民が考えて、明確に意見を出して下さっているのは、本当に素晴らしいことだと思う。

【資料2】はかなり見やすいものができた。私がイメージしているのは、例えば1ページから4ページまでの内容を刷り出して、和歌山市あるいは関係団体が、地域福祉とは何か説明する時のパンフレットみたいに使えないかと思っている。前回(第3次計画)も事例集を作った。そうするとある団体は、コピーして皆さんに配って下さった。自分たちの団体はこんなことをしているというすごく良いPRと、モチベーションの向上にも繋がったようなので、各団体にもそういう利用方法をしてもらいたい。市民の方が「あっ、こういうやり方しているんだ、こんな事も地域でできるのかな、私のところもやってみようかな」という気持ちで読んでもらえる、読み物的な感じをイメージして作っている。これによって和歌山市の地域活動の広がりを、前回と比べても感じることができた。

<委員>

委員からの意見は随分と反映されていると、説明を聞かせてもらえたが、きちんと読んで意見をいただいたパブリックコメントに対して、「いやいや、この意見、ちゃんと見てくれたらこの項目に含まれるんだけど」みたいにするのは、ものすごく乖離を感じる。詳しいことを書けないからこうなんだ、というのではなく。これだけのことを書いている人達に、ホームページでどんな書き方をするのかは分からないが、私としては勿体無いし、申し訳ないと思うが、いかがか。

<高齢者・地域福祉課長>

地域福祉計画は主となる上位計画で、その下に個々の計画がぶら下がっている。今、パブリックコメントで色々なご意見、かなり詳しく意見をいただいているので、確かにおっしゃられる通りなのだけれども、(地域福祉計画は)理念とか基本目標を定めているので、各事業の計画、それぞれの計画の方で、カバーしていく形を取らせていただいている。

<議長>

答えていただいた関連項目とか、答え自体は間違いではない。逆に言うと、行政の文章で書くのは難しいかもしれないが、丁寧に意見を下さったことに対する謝意と、あるいは、内容については非常によく分かるのだけれども、計画自体は上位計画なので、具体化したものではなくて、下のものに委ねる、ないしはそれを反映したものを骨として入れているのでこういう反映の仕方になる、という表現の方を若干、工夫をしてもらおうと良い気がする。

<委員>

全部「対応しています」といった書き方で言われると、次からパブリックコメントをし難いと思う。

<議長>

どう書くかは任せるが、丁寧な意見を出してくれてありがとうというのは、返答の仕方としては欲しい。そのあたりは、私と事務局で調整させて下さい。

<委員>

他の地域福祉計画にも関わったが、ここまできちっと読んでくださるとするのは、和歌山市民の方が本当に素晴らしいと思った。公民協働で作っているのだから、作り手が真摯に受け止めてなければならない場面。特に「行政が出す福祉計画なのに、地域や個人に頼りすぎている気がする」というようなところ、この計画からもそれが強く感じられる。計画の最初のあたりで、住民の位置づけと行政の位置づけを、もう少しはっきりさせた方が良かったのかなという気もした。

もう一つは、「理念だけでなく、市民の福祉や生活を守るために行政が何をするのかを具体的に示してほしい」というところ。上位計画云々は住民には分かりづらいので、それをどう示していくか、住民懇談会等できちっと出す場を作っていくのも一つだと思った。どうしても、総論賛成、各論反対になって、理論だけで、具体的に誰がいつどのタイミングで、どのようにするのか、予算はどうするのか、というところが見えなければ、計画としての意味合いが薄いと感じる住民もいるのではないかな。計画倒れにならないように、どうしていくのかをもっと明確にする必要がある。

あとは交通インフラがやはり気になった。移動手段の確保は、行政が中心でやっていくところ、もう少し明確に、その中で、コミュニティバスを走らせる云々も書いていたので、行政はどうしていくのか。例えば民間の社会福祉協議会に移送サービスを任せて、皆で支え合いの仕組みを作るなど、公民協働の交通インフラに対する懸念が少しでも払拭されるのかなと感じた。

<議長>

逆に言うと、これは福祉に関する上位計画だし、この資料の、(計画)本編の3ページ目を見ると、計画自体の位置付けが、市の長期総合計画に則ったもの。その中で交通政策も、福祉の分野で言うと交通弱者の話であるが、交通の円滑性も含めて、他の計画でも具体化されるべきところだと思うので、この地域福祉計画だけで動いていくという訳ではない。今回、関係各課が会議に出席しているので、地域福祉の上位計画の協議の場で意見が出たということ意識しながら、取り組んで欲しい。

地域福祉はいきもの。計画を作り、それを実際に押したり引いたり、悩みながら動かしていくものなので。この第4次計画は作って終わりではない。そういう意味で言えば、個々の委員会などで、公と民、あるいは個人と共、その関係性をどうしていくか、パブリックコメントも含めて、今後和歌山市でもずっと続く課題であろうと思うので、今後の協議会や地域福祉の運営の方で、考えていく機会にできればと思っている。

<委員>

福祉有償運送事業運営協議会、これが全然、和歌山市において前向きに進んでいないのは、何が原因か。できるという声は聞くけれども、10年来進んでいない。パブリックコメントでも、移動支援がかなり求められている。だから、この福祉有償運送事業運営協議会を市が設置していかないと、私たちも移動支援に取り組んでいけない。第4次計画にも一切出ていないし、和歌山市は今後どういう形で取り組んでいくのか教えていただきたい。

<議長>

福祉有償運送については、県内でも、例えば橋本(市)や紀南地方など、それがないと成り立たないという関係性から、進めてきている。和歌山市の方もまた検討いただいていると思うが、担当課はどこか。

<高齢者・地域福祉課長>

私共では事務局は持っていない。役所の中でどこが持つというのが、もしかしたら決まっていないのかと。

<委員>

私たちも福祉有償運送に取り組みたいと思うが、結局、協議会がないから前に進まない。何度か市へお願いに行ったが、たらい回しみたいになされたので、この際どこかで見直しを一回、お願いしたい。

<高齢者・地域福祉課長>

役所の中で(担当部署が)決まっていないというのは、まずい話かと思う。地

域バスは今、交通政策課で、紀三井寺の方でやっているけれども、他の地域でもバス路線が廃止になってきていて、そういう声が出てきていると思う。その辺、進めていくように頑張らせていただく。

<委員>

県庁所在地できていないのは和歌山市と沖縄市だけ。

<議長>

是非よろしくお願ひしたい。協議会の皆さんもそういう声だと思ふ。

(4) 計画の推進について

<事務局>

次の資料について事務局から説明

【資料3】 地域福祉計画の推進方法について

【資料3-1】 地域福祉計画の指標

【資料3-2】 「先導的に取り組む事項」事業進捗管理のイメージ

【資料3-3】 計画推進スケジュール（案）

<議長>

3次計画から、年1回の（先導的に取り組む事業の）進捗状況管理を8月に行っている。以前は年度末にやっていたが、事業の精査をするための年度データをまとめる時間が必要だろうということと、8月に協議会をすれば、次年度の予算要求に意見を反映できるということで。来年度の8月には、この1年間やってきた内容のチェックを協議会で行い、次年度の予算要求に反映させるという形式をとっている。

事業の進捗管理については、協議会委員に適切に分かるような、なるべく具体的なデータ、例えば、実施人数であるとか、質的な行動とか、大体の事業成果が分かるデータを内容に入れて欲しいというのが一点目。

二点目、課題と進捗管理の方向性だが、行政チェックとしては、継続して同じように取り組みますとか、これで上手くいっているのでOKという答えは、基本的には有り得ないと思っている。改善がされるべきだと思うので、次に出てくる令和2年8月の進捗状況管理は、どのような課題があるのか、今後の方向性がどのように前進していくのか、各課明確に、可視化した記載を是非お願ひしたい。

<議長>

・議題の(2)から(4)で、第4次計画(案)、計画概要版、計画の推進について審議した。

<協議会委員>

- ・計画案を承認。

(5) その他

<事務局>

- ・計画の完成時期、各委員への送付について説明。
- ・来年度の協議会は、令和2年8月頃に開催予定。

- ・各委員から一言

<委員>

私たちが協議会に入るといというのは、市民に近い意見が反映されるようにというところが大きい。でもこうした上位計画に色々盛り込むためには、制限がかかってくるのかと思う。これから、個別の部分がどういう風に反映されていくのか見ていくのも、私たちが選任された役割だと思っている。

<委員>

各団体の構成員が高齢化している。免許を返納している方も多く、新しい道ができていく割にバスが通っていないから医者に行けないとか、バスの優待券をもらっても使う場面が少ないとか、そういう意見が会の中で聞く。

それから私たちは、子育ての分野にも力を入れており、若い世代のお手伝いをしていきたいと思っているが、随分と社会の状態が変わり、家族のありようも変わってきていて、常々苦心している。できるだけ地域で繋がっていききたい、声を掛けていききたい、言葉を掛けていききたいと思っている。

<委員>

私は、「地域は地域で」というのを地域でのモットーにしている。地域の皆さん誰でも、幸せになりたい、この町でずっと暮らしたいという思いを持っている。だから、地域の皆さん自身が「担い手」であり「受け手」であることを、しっかり把握してもらうことが大事で、実践の場を提供していきたいと常々考えている。となると、お金が必要になってくるので、福祉へも、公助として力を入れてもらって、我々が何らか動けるような状態を作って欲しい。お金のない事業は前に進み難いので、行政には福祉の予算をしっかりとお願いしていきたい。私たちも頑張って、地域は地域で守っていききたいと考えている。

<委員>

ソフト面では充実しているが、ハード面では、支所・連絡所のトイレ事情は

特に悪い。体の悪い人は全然使えない。以前、体の悪い女性が避難してきたが、トイレに行くにも居る人間が男性ばかりで、付いていく訳にいかない。だから誰でも使えるように、特に放置されがちな支所・連絡所は昭和の時代のトイレという状態なので、一つ参考にして欲しい。

<委員>

子どもたちの人口が非常に少ない。今、先の見えない状況だからこそ、自分で考えて判断していける子どもを育てなければと、第一に考えている。

この計画には参加と協働とあるが、今、自治会未加入世帯がどんどん増えてきていると思う。その中で、学校では保護者同士のつながりがあるが、自治会と保護者の間などは疎遠になりつつあるのではと危惧している。子どもとその保護者に当事者意識を持ってほしい。防災避難訓練はいつも地域の先輩方がリードする形でしているが、昨年度秋に一度保護者だけでやってみようということで避難所運営をした。そうすると、「いつまでも地域の方々に頼ってられない」、「困った時に人任せの運営では成り立たない」というようなことを皆さんに実感してもらえた良い機会になった。子どもも自分なりに働いていた。

だから、これから学校で、福祉、災害対応、危機管理も含めて「自分たちが頑張らないと皆が幸せになれないよ」ということを感じ取って、当事者意識を持ってもらえたらと思っている。

<委員>

色々話されたとおり、福祉にはお金がかかる。福祉に力が入っていないのではないかと皆さん感じていて、パブリックコメントを見ていると思う。一つのことに取り掛かるスピードがすごく遅い。福祉は、どんなに互助・共助したとしても、最後は公が見なければ、本当のセーフティーネットにならない。和歌山市はこれだけは最後にやるという、安心をきちんと書かないと、と感じる。

先ほど話があったトイレの問題は、真剣に考えないと、持病のある高齢者も多いので、この間の断水の時も、このままでは危ないと思った。衣食住の中でも、食と住、排泄と食べることは基本なので、そこは押さえないといけない。

<委員>

パブコメを反映して、2点提言させていただきたい。

まず一点目、移送の問題は早急にしなければならない。バス停まで行ける人は段々減ってくるので、究極的にはドア to ドアの移送サービスを早く開発して、公民でやっていかなければいけない。これはもう行政が音頭をとって、早急に、課題にして、協議していく方針を持って欲しい。

もう一点、パブコメの中にもあったが、公的サービスには当然限界があることは十分承知しており、それを誰がどのように補填していくのが、今後重要

な問題になってくる。しかし、突き詰めていくと、地域住民が公的サービスの限界を全て受け止めていく受け皿になってしまわないかと懸念される。むしろこれは逆であり、地域住民ができないことを公的サービスで支えていくという観点が重要。そこを次の計画では明確にする必要がある。それがまず、和歌山市民、住民との信頼関係の構築の一環になる。これは基本中の基本だと思うので、基本理念の最初に明確にして欲しい。これがなければ、市民が計画を読んだ時に一体これは誰がするんだとなるので、明確にして欲しい。

<委員>

福祉は幅広いので、これからは福祉のスペシャリストみたいな人材育成が必要。もう一つ、福祉の世界は、年代によって考え方がかなり違う。例えばパソコンに対する意識など。年代に対応したことも考えていかないとけない。

それと、今日の【資料2】のような形が、説明資料として一番いいと思う。要は「読む」よりも「見る」ということ。会議では細かな資料もいいが、一般の方に説明するには、目で見て感じられる資料が一番理想。「見る」感じのものにするには、ホームページなどを使うのが効果的でないか。年配の人は息子、娘に見てもらおうような格好になるかもしれないが、利用したらいいのではないかと思っている。

<委員>

いつも感じるのだが、沢山の書類に目を通していくと、こんなに色々と素晴らしい活動、サービスがあるのに、一般の方たちに伝わっていないということ。地域で熱心な方がいたり、担当の方がいたりすると、その地域は色々なことが進んでいくけれど、誰も知らず人がいない地域では「何も知らないよ」となる。すごく良い行政サービスができたりしても、広く端々まで伝えていかなければならない。こういうサービスが、困った時はあるから、行政に相談したらいけるよ、と皆に伝えていってあげたいと感じている。

<委員>

パブリックコメントの交通手段について、私も皆さんと同じことを思っている。高齢者ともなれば、何らかの交通手段が必要。路線バスの廃止や本数の減少により、どんな事業（活動）をしていても、交通手段がない、時間には間に合わないということで、段々と尻込みしていくのが現状。私たち高齢者は、子どもには迷惑を掛けられない、自分のことは自分ですよう頑張っている独居老人がほとんど。皆さん70パスの1回100円で乗れるバスに感謝しながら使っている。どうかバスの方も再考していただければ、活動にも良い影響が出てくるのではと思う。

<委員>

交通手段について、私の地域ではバスが廃線になっていたが、一年前に高齢者のためのタクシーが試験的に導入された。私は知らなかったけれど。それも、地域から中心部までの区間でなく、地域の中でのタクシーだったので、「あまり意味がないな」という声も沢山あった。結局導入には至らなかった。

高齢になると、交通手段がすごく大事。買い物一つでも。だから、そういうバスとか連れ合いタクシーとか、色々な交通手段を考えて行って欲しい。

それから、少子化と言われているが、計画案にある和歌山市の出生率は、全国平均より少し上回っているので少し安心した。でも、両親共働きやひとり親の子どもは増えている。世代間の交流が希薄になっている中で、子育て支援に関わり、子どもたちを安全に、保護者が安心して預けられる所を目標に、毎年頑張っている。両親が働いて、祖父母も仕事があり、例えば塾を出してもすぐに迎えに来られない、という子どもも結構いて、今後増えていくと思う。母子家庭の方には仕事を掛け持ちでされているとも聞く。より手厚い子育て支援をして欲しい。

<委員>

やはりこの道に精通した人が、この会議に出るのに相応しいのではないか。初めて協議会に参加した時、えらいところへ来た、と感じていた。私は私立幼稚園を運営しているので、幼児教育ならいくらでも喋らせていただくが、地域の福祉となると、頭の中にはそれがなかなかなかった。三年前、議長と貴志川町でお会いして、議長がいるなら心強いということで参加させていただいて聞いているが、皆さん地域福祉に情熱を持っているなとつくづく感じていた。

資料3-2の4ページに、「子どもの頃からの福祉体験活動の導入」の右に「小中学校」とあるが「幼稚園」がない。幼稚園は子どもの教育を担っているが勉強ばかりを教えている訳ではなく、福祉についても、老人ホームや地域の人たちと交流したり、小学校と交流したり、そういう風なことをしている。記載の必要はないが、皆さんには知っていて欲しい。

<委員>

最終の計画案では、「みんなで取り組む方向」と「市が取り組むこと」に絵のマークが付き、素晴らしい出来栄えになった。その「市が取り組むこと」については、これから行政が責任を持って取り組んでもらえるのだろうと思う。

最近、和歌山市の街中への大学や専門学校の誘致によって、若者が増えてきていて、市駅前や公共施設などの都市開発により、街中に活気が出てきている。そういう学生が集まったり、街中に活気が出たりで、福祉の担い手とか、福祉サービス、地域課題を解決するような事業者も運営がしやすくなると感じている。これからの和歌山市の地域福祉に期待している。

<委員>

障害者の「害」という漢字を入れているが、今の流れでは平仮名や「いしへん」の漢字を用いるのではないか。

<障害者支援課長>

和歌山市では「害」を使っている。「いしへん」の「碍」を用いる自治体もあり、平仮名を用いる自治体もある。

<委員>

話が変わるけれども、小泉進次郎さんがCO2削減の会議に出て、CO2を削減すると言った時に、他国の委員が間髪入れず「どうやってやるんだ？」と。計画には非常に良い内容が書かれているが、どうやって実現するのか示されると、今後さらに良いと思った。

<議長>

それぞれすごく価値のある良いお話をしていただいた。地域には、素人も、逆に専門家もいなくて、多様なところから意見を発してもらったらいいと思っている。私などは福祉のプロの位置付けなので、それなりに話をするが、福祉の関係でない人や、例えば小学校一年生の娘が何気に発した言葉に、気付かされることは結構ある。それが大事。だから全然大丈夫というのが一点目。

二点目、私はこの推進協議会の立場上、行政の計画に対して色々申し上げるけれども、第1次計画から第2次、第3次と進歩していると思うし、市の行政施策は担当課が丁寧に取り組んでいる印象である。今回、高齢者・地域福祉課の方でもかなりこの計画を揉んで、細かな部分まで考えられたことは理解しているが、それが上手く市民に伝わっていないかもしれないと、委員が言われた。逆に上手く伝えるにはどうすればいいのか。私たち協議会委員も、それぞれの機関に話をするところがあるので、関係団体とも上手く連携して、市がしていること、市でできることを伝えて、協働し合っていければと思う。

私、地域福祉は「1+1=2以上になる」と言っている。地域福祉に関しては、一つ一つの力が集まり一緒にすることによって、それ以上の力を発揮して、周りに良い影響を与えていく。その動きが広がればいい。私たち委員と行政で、「こうしたい」と思う和歌山市の姿はそんなにずれていない。だから、次年度以降の会議もできる限り、どうすれば良くできるだろうと、一緒に検討して、頑張っていきましょう。

3 閉会